平成 22 年 10 月 28 日

各　　位

会 社 名　株式会社 東 海 理 化
（登記社名　株式会社東海理化電機製作所）
代表者名　取締役社長　牛山　雄造
（コード番号 6995　東証・名証第 1 部）
問合せ先　経理部長　粕谷　実也
TEL　(0587) 95－5211

業績予想値と決算値との差異及び業績予想の修正に関するお知らせ

平成 22 年８月２日に公表した平成 23 年３月期（平成 22 年４月１日～平成 23 年３月 31 日）第２四半期累計期間の業績予想値と本日公表の決算において差異が生じましたのでお知らせ致します。

また、平成 23 年３月期通期の業績予想につきましても修正致しましたのでお知らせ致します。

記

１．業績予想値と決算値との差異

（1）平成23年３月期第２四半期（累計）連結業績予想値と実績値との差異

（平成22年４月１日～平成22年９月30日）　（金額の単位：百万円）

	売　上　高	営 業 利 益	経 常 利 益	四半期純利益	１株当たり四半期純利益
前回発表予想（A）	167,000	9,500	9,400	1,700	18 円 82 銭
実　績　値（B）	167,268	11,882	11,886	△505	△5 円 60 銭
増　減　額（B－A）	268	2,382	2,486	△2,205	－
増　減　率（%）	0.2	25.1	26.5	－	－
（ご参考）前年同四半期実績	142,816	1,498	2,864	1,761	19 円 51 銭

（2）平成23年３月期第２四半期（累計）個別業績予想値と実績値との差異

（平成22年４月１日～平成22年９月30日）

	売　上　高	営 業 利 益	経 常 利 益	四半期純利益	１株当たり四半期純利益
前回発表予想（A）	122,000	4,500	9,100	2,800	31 円 00 銭
実　績　値（B）	122,171	5,898	10,480	△386	△4 円 27 銭
増　減　額（B－A）	171	1,398	1,380	△3,186	－
増　減　率（%）	0.1	31.1	15.2	－	－
（ご参考）前年同四半期実績	108,121	△1,274	2,409	2,037	22 円 56 銭

２．通期業績予想の修正

（金額の単位：百万円）

（1）平成23年３月期通期連結業績予想数値の修正（平成22年４月１日～平成23年３月31日）

	売　上　高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	339,000	19,500	19,400	7,700	85円25銭
今回修正予想（B）	332,000	21,600	21,900	6,000	66円43銭
増　減　額（B－A）	△7,000	2,100	2,500	△1,700	－
増　減　率（%）	△2.1	10.8	12.9	△22.1	－
（ご参考）前期実績	331,014	18,032	20,372	12,603	139円54銭

（2）平成23年３月期通期個別業績予想数値の修正（平成22年４月１日～平成23年３月31日）

	売　上　高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	246,000	9,500	14,100	9,800	108円50銭
今回修正予想（B）	244,000	11,400	16,200	7,300	80円82銭
増　減　額（B－A）	△2,000	1,900	2,100	△2,500	－
増　減　率（%）	△0.8	20.0	14.9	△25.5	－
（ご参考）前期実績	248,282	7,417	11,788	7,829	86円68銭

３．修正の理由

（業績予想値と決算値との差異）

自動車生産台数が想定を若干上回ったことや、原価低減活動の成果が計画を上回る水準で推移したこと等により売上高、営業利益、経常利益が増加したため、上記の通り差異が生じました。一方、四半期純利益につきましては、平成22年10月18日公表の「特別損失の発生に関するお知らせ」にありますように、得意先における市場回収処置（リコール）の当社負担見込み額を製品保証引当金繰入額として特別損失に計上したため利益が減少し、上記の通り差異が生じました。

（通期業績予想）

売上高は自動車生産台数の減少が見込まれることや、円高による為替影響により減少する見通しであります。営業利益、経常利益は売上高の減少による影響はあるものの、グループを挙げての原価低減活動に取り組むことにより、利益が増加する見通しであります。一方、当期純利益につきましては、上記の特別損失の計上により減少する見通しであります。このため、上記の通り業績予想を修正致します。

（注）上記の予想は発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以　　上